

家庭園芸に関する研究

1. アイディア鉢について

松 尾 英 輔

(昭和52年8月31日 受理)

Studies on the Amenity Horticulture in Japan

1. On the 'Idea Pot' in Kagoshima City

Eisuke MATSUO

(Laboratory of Ornamental Horticulture and Floriculture)

緒 言

「サラリーマンが読む週刊誌やOLが読むような女性週刊誌、ファッション誌まで、“ベランダでできる野菜の栽培”や“部屋を飾る植物の育てかた”を特集し、デパートの園芸コーナーは特売場のようにごったがえしています²⁾。」という表現で、その盛況ぶりが伝えられた家庭園芸ブームは、その後も高まりこそすれ、決して衰えてはいない。たとえば、貸農園への申し込みは公営住宅なみの高倍率だといわれているし、伝統ある植木市に加えて、園芸品を取り扱う新しい市が、各地に続々と開設され、それらはいずれも大いに繁昌している。

園芸に関する2、3の調査結果によれば、庭を持つこともままならぬ大都市でも、約70%の世帯が家庭園芸に実際に親しみ、今はやっていないが、今後はやりたいと希望する人が約20%と、園芸に関心を示す人々は90%にも達している¹⁾²⁾。また、庭があって園芸に手を染める人が80%をこす³⁾のは当然としても、庭がなくてもそれが50%にものぼる⁴⁾という事実は興味深い。この場合には、植木鉢が重要な役割を果たしているものと考えられる。事実、鉢物の保有率は高く、全体の80%にも達している⁵⁾。

しかしながら、一方では“鉢代がバカにならない”とか、“鉢に無意味な装飾が多すぎる”という声もきかれる。このような、バカにならない鉢代をいかに節約し、あるいは、植物にあった鉢をどのように工夫しているのだろうか。

そもそも、植木鉢とは一体何であろうか。

鉢そのものが、鉢物を観賞する場合の一要素であることは否定できないが、鉢の原点に立ちかえてみれば、その必要条件は次の2点にあるといえよう。まず

一つは、植物を支える用土を保てることである。これは植物の生える大地を小さく切りとってくることを意味する。いま一つは、用土を保つわくが、水をかけても、かなり長期間こわれないことである。たとえば、紙なども用土を保つことはできるが、長期間の使用には耐えない。したがって、用土を保つことができ、かつ、水で溶けてしまわないものならば、すべて、植物を植える鉢となりうるはずである。

このような観点にたてば、鉢となりうる素材は多い。現に、街頭を歩けば、魚箱、リング箱、火鉢、流しなどに植物が植えられているのを、必ず見ることができるし、東京でも深川あたりではよくみかけるといふ*。

このように、鉢の原点にかえて植物が植えられている容器、つまり、もともと植物栽培を目的として開発された容器類（たとえば、植木鉢、プランター、フラワーポットなど）を除いたものすべて、を“アイディア鉢 (Idea Pot)”と呼ぶことにしよう。このようなアイディア鉢は、東京、鹿児島のような都会だけでなく、離島の集落、漁村などでもよく見ることができる。

本調査では、鹿児島市内におけるアイディア鉢について、1) その保有率、2) アイディア鉢として使われた素材、3) それに植えられている植物の実態を明らかにし、家庭園芸の本質を解明するための一つの試みを行った。

調査地および調査方法

調査対象地は鹿児島市荒田一丁目、同二丁目、鴨池一丁目、上荒田町地域であった。当地域は約4,200戸、大きな街路に面した地域には商店が比較的多く、それ

* 漆原美代子、1975.4.5. デザイン歳時記——植木ばち、(朝日新聞)。

以外の内部域は住宅地となっていて、工場はほとんどない。住宅の種類についてみると、高層住宅はほとんどなく、一戸建住宅が主で、集合住宅（平屋または二階建）は比較的少ない。

調査は1976年5月中旬から下旬にかけて行なった。この時期は、鹿児島にあっては、春の植物から夏の植物への移行期にあたり、植物の種類が豊かなシーズンである。

当地域内の家をランダムに訪ね、家の表側にあたる部分におかれているアイディア鉢の種類、数、および、それに植えられた植物の種類を調査した。なお、あわせて、屋敷内に占める植物の面積を調査した。これを屋敷の広さに対する割合であらわして“緑の程度 (Degree of Green Area)”とし、O：まったくない、I：20%以下、II：20～40%、III：40%以上に大別した。調査した住宅の内訳および緑の程度をTable 1に示した。

調査結果および考察

1. アイディア鉢の保有状態

アイディア鉢を有する家は全体の約30%であった (Table 1)。

はじめに、緑の程度との関係でみると、全体的に緑が少ない場合にアイディア鉢の保有率は高い傾向がみ

られた。これを住宅の種類でみると、まず専用住宅では、緑が少ないほどアイディア鉢の保有率が高かった。兼用住宅では、どのタイプでも、植物はまったくない (O) か、少しあるだけ (I) であって、調査数50戸をこえる例では、飲食店と小売店があり、それらのアイディア鉢保有率は高く、およそ35%であった。これらの結果からみると、アイディア鉢の保有は庭の広さとの関係が深そうである。これについては、敷地の広さ、そのなかの庭の広さ、などの点からも検討が必要であろう。

アイディア鉢保有の実態を地域的な分布の面からみると、かなり偏りがみられた。すなわち、あるブロックでは、道路をはさんで向いあう10数戸がすべてアイディア鉢を有しているのに、別のブロックではアイディア鉢をまったく有していない、という具合であった。このようなアイディア鉢は“かっこうが悪くて恥ずかしい”けれども、“鉢代も高くてもバカにならない”から使っている、という発言があったことを考えると、隣近所が同じようにアイディア鉢をもつことによって、一種のうしろめたさ、ないしは、恥ずかしさを解消しているとみることができよう。

2. アイディア鉢の種類と数

鉢の基本的条件は、先にも述べたように、土を保持できることと、水によってこわれないことであるが、

Table 1. Kind and number of houses examined, degree of green area on the premises and frequency appearance (%) of 'idea pot'

Kind of house		Degree of green area on the premises				Total
		0	I	II	III	
Exclusive use	Independent house	11 —	758 (33.2)	176 (5.1)	30 (0.0)	975 (26.8)
	Duplex, triplex, etc.	5 —	59 (45.8)	0 —	0 —	64 (42.2)
Combined use	Restaurants	9 —	58 (39.7)	0 —	0 —	67 (34.3)
	Retail stores	58 —	79 (59.5)	0 —	0 —	137 (35.8)
	Barber's or beauty shop	1 —	23 (34.8)	0 —	0 —	24 (33.3)
	Hospitals	1 —	20 (5.0)	0 —	0 —	21 (4.8)
	Others	13 —	32 (40.6)	0 —	0 —	45 (28.9)
	Total	98 —	1029 (36.1)	176 (5.1)	30 (0.0)	1333 (28.5)

N.B. 1) Green area means the area covered with plants on the premises.

2) Degree of green area; 0: No plant, I: lesser than 20%, II: 20～40% and III: more than 40%.

3) Frequency appearance was presented as percentage of the premises with idea pots to those examined.

Table 2. Kind of idea pots, their frequency appearance and their classification

Kind of idea pot	Frequency appearance			Classification		
	Number of houses	(% to houses with idea pots)	Number of idea pots	3	See Table 4	5
1. Wooden boxes	120	(31.6)	211	W	C	V
2. Sink and/or its base	81	(21.3)	98	C	A	I
3. Polyethylene buckets	64	(16.8)	98	S	B	III
4. Wooden box for fish	57	(15.0)	104	W	C	V
5. Polyethylene tub	57	(15.0)	102	S	B	I
6. Ceramic fire box (Hibachi)	44	(11.6)	48	P	A	III
7. Metal bucket	40	(10.5)	57	M	B	III
8. Petrol can	34	(8.9)	109	M	C	III
9. Polyethylene bowl	33	(8.7)	57	S	B	I
10. Wooden box for apples	33	(8.7)	52	W	C	V
11. Packing containers made of styrofoam	25	(6.6)	59	S	C	V
12. Polyethylene boxes	20	(5.3)	26	S	B	III
13. Polyethylene vessels	19	(5.0)	43	S	B	I
14. Cook pots or pans	19	(5.0)	24	M	B	I
15. Powdered milk can	17	(4.5)	36	M	C	I
16. Metal basin	16	(4.2)	18	M	A	II
17. Metal bowl	15	(3.9)	17	M	B	I
18. Concrete tank	14	(3.7)	18	C	A	IV
19. Metal boxes	13	(3.4)	26	M	B	III
20. Metal wash basin	11	(2.9)	13	M	B	II
21. Tyre	10	(2.6)	16	C	B	IV
22. Empty cans	9	(2.4)	10	M	C	III
23. Polyethylene wash basin	8	(2.1)	13	S	B	II
24. Concrete well curb	8	(2.1)	9	C	D	IV
25. Electric cooking-pot for rice	8	(2.1)	8	M	B	I
26. Crocks	7	(1.8)	8	P	A	I
27. Polyethylene basin	7	(1.8)	7	S	B	II
28. Stone	7	(1.8)	10	C	E	V
29. Building block	6	(1.6)	6	C	D	IV
30. Catchup can	6	(1.6)	6	M	C	I
31. Beer box for transport	5	(1.3)	17	S	D	V
32. Dust-basket	5	(1.3)	7	S	B	III
33. Fish bowl	5	(1.3)	5	S	B	III
34. Paint can	4	(1.1)	10	M	C	III
35. Coke box for transport	4	(1.1)	5	S	D	V
36. Wooden tub	4	(1.1)	4	W	A	I
37. Clay charcoal stove	4	(1.1)	4	P	A	I
38. Drainer	4	(1.1)	4	S	B	I
39. Bathtub	3		3	M	A	II
40. Drawer	3		3	W	B	III
41. Cooking pot for rice	3		3	M	A	I
42. Concrete dust-bin	3		3	C	A	IV
43. Box for sale of Octopi	2		5	S	C	I
44. Polyethylene tank	2		4	S	B	III
45. Vinyl bag	2		3	S	C	I
46. Teapot	2		2	P	B	I
47. Earthen pipe	2		2	P	D	IV
48. Gasoline drum can	2		2	M	C	V
49. Instant noodle cup (styrofoam)	1		3	S	C	I
50. Polyethylene pipe	1		3	S	E	V
51. Plastic icecream cup (empty)	1		3	S	C	I
52. Unglazed pottery	1		3	P	E	V
53. Polyethylene tub for pickles	1		2	S	C	I
54. Cake box	1		2	M	C	I
55. Shopping basket	1		1	S	D	V
56. Soft drink box for transport	1		1	S	D	V
57. Stone mill	1		1	C	A	I
58. Oil can	1		1	M	C	III
59. Wooden tub for pickles	1		1	W	C	I
60. Wooden cask	1		1	W	A	III
61. Metal tub	1		1	M	A	I
62. Metal vessel	1		1	M	B	I
63. 'Ramen' bowl	1		1	P	B	I
64. Instant 'Yakisoba' cup	1		1	S	C	I

Kind of idea pot	Frequency appearance			Classification		
	Number of houses	(% to houses with idea pots)	Number of idea pots	See Table 3	Table 4	Table 5
65. Wagner pot	1		1	P	D	V
66. Bathing stool	1		1	S	B	II
67. Old style Japanese stove for cooking	1		1	C	A	I
68. Concrete U tube	1		1	C	D	IV
69. Box for 'Pachinko-ball'	1		1	S	D	V
70. Lamp shade	1		1	S	B	III
71. Polyethylene container	1		1	S	D	V
72. Charcoal extinguisher	1		1	P	A	I
73. Stump	1		1	W	E	V
74. Milk box for transport (hexagon)	1		1	S	D	V
75. Perforated vessel (a part of steamer)	1		1	M	B	I
76. A kind of pottery	1		1	P	E	V

N.B. 1) Idea pots were classified according to the kind of material (Table 3), the kind of utilization (Table 4) or the place where they were originally used (Table 5).
 2) Frequency appearance (%) less than 1% were omitted.

Table 3. Classification of idea pots by the kind of materials and frequency appearance

Material		Kinds of idea pot	Total number of houses with idea pot	Total number of idea pots
S	Synthesized resin	28 (36.8)	274 (30.6)	474 (33.3)
M	Metal	20 (26.3)	205 (22.9)	340 (23.9)
P	Pottery	10 (13.2)	64 (7.2)	71 (5.0)
C	Concrete, stone or rubber	10 (13.2)	132 (14.8)	163 (11.5)
W	Wood	8 (10.5)	219 (24.5)	375 (26.3)
Total		76 (100.0)	894 (100.0)	1423 (100.0)

このような条件を満足するものは、私達の身边にはきわめて多い。しかし、現実アイディア鉢として使われていたものは、Table 2 に示したようにあまり多くはない。個々の用途や名称が明らかでないで、〇〇類としてまとめたもののがかなりあることを考慮しても、種類としては意外に少なかった。このことは、無意識のうちにも、やはりある程度は、“かっこうが悪くて恥ずかしい”というような、アイディア鉢の外観を考慮する気持ちが働いていることを示すものであろう。

しかしながら一方では、電燈のかさ、樹木の切り株、浴用椅子、タイヤ、ブロックの穴、ビニール袋など (Fig. 1) のように、園芸専門家の常識ではとても着想できそうにないものを利用したり、石、合成樹脂パイプ、土管などを加工して鉢に仕立てるなど、アイディアの斬新さと自由奔放さが注目された。なかでも、電燈のかさ、切り株、ブロックの穴、石などは、普通の植木鉢以上に観賞的価値の高い作品をつくりあげていた。

とはいえ、全体的にみると、鉢物をもつ世帯が 80

%にものぼる¹⁾のに対して、アイディア鉢をもつ家は約 30 %とかなり少なかった (Table 1)。また、大都市での手持鉢数は 1 戸当たり平均 15 鉢 (鉢物保有世帯) であった¹⁾のに対して、鹿児島における手持のアイディア鉢は平均 2.4 種類で延べ 3.7 鉢であり、手持数の少ない家が多かった (Fig. 2-A,B)。本調査では植木鉢の保有数は調査しなかったけれども、アイディア鉢を有する家はほとんどすべて植木鉢を有していたことを考えあわせると、アイディア鉢はやはり、植木鉢の補助的な役割しか果たしていないといえよう。

アイディア鉢の素材をみると、種類としては、合成樹脂や金属の製品が多かった。これは最近の日常品にはこれらの製品が多いためであろう。しかし、アイディア鉢の数としては、木製品の割合がかなり高かった (Table 3)。これは、リング箱、魚箱などの例にみられるように、比較的入手しやすく、なじみやすいことと同時に、木製品は通水性、通気性が比較的よいので、植木鉢に近い条件を得ることができると考えられているためとみられる。

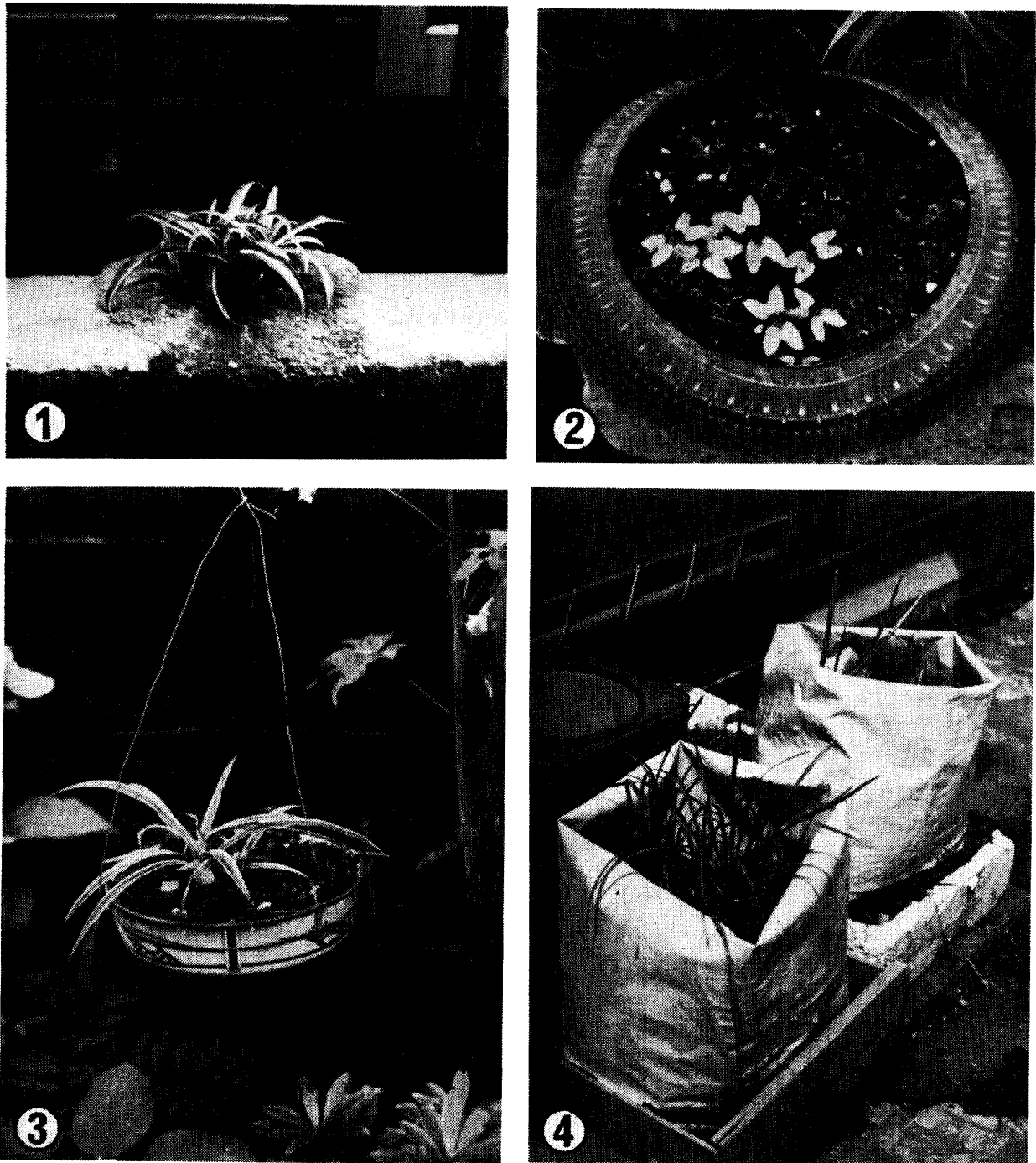


Fig. 1. Samples of idea pots.

1) Concrete block, 2) Tyre,
3) Lamp shade, and 4) Vinyl bag.

アイディア鉢をその利用法の面からみると、いわゆる廃物利用が圧倒的に多かった (Table 4)。しかし、その廃物利用にもいくつかのタイプがあり、欠けたり、使い古して磨耗したもの (B) や、魚箱、リング箱などのように、ある当初の目的を達したもの (C) が、種類、保有率、総数のいずれに関しても多かつ

た。しかし、ここで注目したいことは、生活形態の変化によって不用品あるいは廃物となったもの (A)、たとえば、火鉢、流し、水槽などが意外と多かったことである。廃物とはなったが、“捨て場所に困る”からアイディア鉢にしたという声もきかれた。しかし、これらの品々には人々の生活が刻みこまれている。し

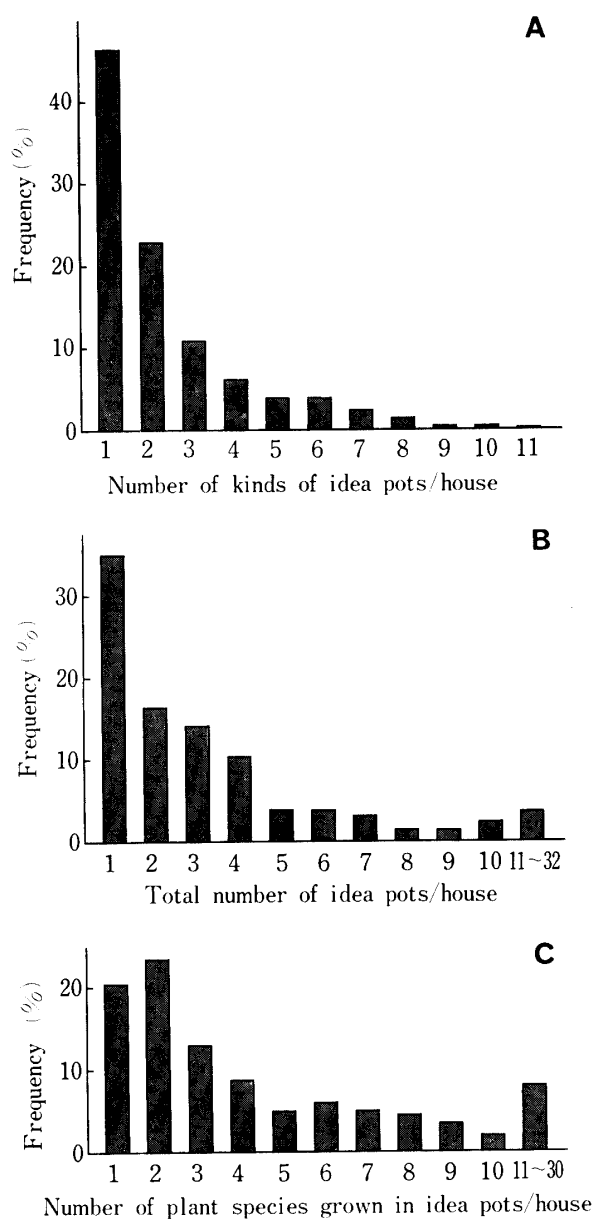


Fig. 2. Frequency distribution in number of the kinds of idea pots (A), total number of idea pots (B) and number of plant species (C).

たがって、それらに対する愛着は捨てがたく、“捨てるのはもったいない”、“何か他のものに使えないか”という気持ちも、このようなアイディア鉢を生みだした契機の一つになっているものと考えられる。

これらアイディア鉢の原体が使用されていた場所についてみると、室内、それも台所で使用されるもの(I)が多かった(Table 5)。このような台所用品は、形のうえで鉢に似ているものが多く、また、目につきやすい存在であること、種類そのものが多いこと、などがアイディア鉢に転用されやすい原因であろう。ま

た、家庭の日常品ではないもの(V)も、種類は少ないが、数はかなり多かった点が注目される。このなかには、木箱類が含まれるところから、先に素材の項で述べたような理由で数が多くなるのであろう。

3. アイディア鉢の植物

本調査では二百数十種の植物が認められた(Table 6)が、1戸当たりの種類はごく少なかった(Fig.2-C)。種類別にその出現率をみると、ネギがもっとも多く(40.5%)、ニラ(27.1%)、ゼラニウム(23.2%)、キク(20.8%)と続き、10%以上ではこのほかに、シン(16.8%)とアロエ(11.8%)があげられた。ネギやニラは栽培しやすいことはもちろんであるが、このほかに、一般家庭でよく利用されていることを示すものであろう。キクはその出現率がやや低いようにみられるが、ネギやニラとちがって、いずれかといえば、アイディア鉢よりむしろ植木鉢に植えられることが多い。したがって、アイディア鉢だけでなく、庭や植木鉢についても調べれば、その出現率はもっと高くなる。事実、鉢物に関する調査¹⁾では、園芸をしない世帯をも含めて31%という出現率が示された。

植物の用途についてみると、種類のうえでは、観賞植物が70%以上を占めてもっとも多く、食用植物は20%であり、そのなかでは野菜が果樹よりも圧倒的に多かった(Table 7)。このように果樹が少ない原因は、果樹が永年生植物であって、広い占有面積を必要とするので、アイディア鉢などには入りにくいためと考えられる。

ここで注目したいのは、出現率の上位に、野菜が著しく多くなっている点である(Table 6)。個々については先に述べたが、ここで上位20種についてみると、野菜、観賞植物、薬用植物の種数と延べ出現戸数はそれぞれ、(9, 467)、(10, 347)、(1, 45)である(Table 6より)。すなわち、野菜は、アイディア鉢全体としてみると、種類のうえでは、約20%、延べ出現戸数では約35%にすぎないが(Table 7)、上位20種についてみると、種類でも、延べ出現戸数でも著しく多くなっている。

この事実は一体どのような意味をもつものであろうか。これには少なくとも二つの側面があるように思われる。

まず一つは、観賞植物に比べて野菜の種類はもともと著しく少ないことと、そのなかでも比較的つくりやすく、かつ、しばしば利用される野菜が主に植えられるとすれば、それらの限られた野菜の出現頻度は著しく高くなり、出現率の上位に顔を出す野菜が相対的に

Table 4. Classification of idea pots by their utilization and frequency appearance

Utilization		Kinds of idea pot	Total number of houses with idea pot	Total number of idea pots
A	Becoming useless because of a change in the mode of life, they were diverted to idea pots.	15 (19.7)	184 (20.6)	212 (14.9)
B	Becoming useless for the original purpose because of break-down or wear, they were used as idea pots.	25 (32.9)	350 (39.1)	537 (37.7)
C	Having been used for the original purpose, they were diverted to idea pots.	19 (25.0)	317 (35.5)	610 (42.0)
D	Being still fit for the originally intended use, they were diverted to idea pots.	12 (15.8)	32 (3.6)	46 (3.2)
E	Others	5 (6.6)	11 (1.2)	18 (1.3)
Total		76 (100.0)	894 (100.0)	1423 (100.0)

Table 5. Classification of idea pots by the place where they are primarily used

Where they are used		Kinds of idea pot	Total number of houses with idea pot	Total number of idea pots
I	Kitchen	30 (39.5)	298 (33.3)	446 (31.3)
II	Bathroom	6 (7.9)	46 (5.1)	55 (3.8)
III	Indoor except I and II	15 (19.7)	246 (27.5)	397 (27.8)
IV	Outdoor	7 (9.2)	44 (4.9)	55 (3.8)
V	Special usage and others	18 (23.7)	262 (29.3)	472 (33.1)
Total		76 (100.0)	894 (100.0)	1423 (100.0)

Table 6. Plants in the idea pot, their frequency appearance and classification

	Latin name	Japanese name	Frequency appearance		Classification	
			Number of houses	(%)	(See Table 7)	
1.	<i>Allium fistulosum</i> L.	Negi	154	(40.5)	V	P
2.	<i>Allium tuberosum</i> L.	Nira	103	(27.1)	V	P
3.	<i>Pelargonium hortorum</i> Bailey	Zeranium	88	(23.3)	O	P
4.	<i>Chrysanthemum morifolium</i> Ramat.	Kiku	79	(20.8)	O	P
5.	<i>Perilla frutescens</i> Britton	Shiso	64	(16.8)	V	A
6.	<i>Aloe arborescens</i> Mill.	Aroe	45	(11.8)	P	P
7.	<i>Chrysanthemum coronarium</i> L.	Shungiku	29	(7.6)	V	B
8.	<i>Hippeastrum hybridum</i> hort.	Amaririsu	29	(7.6)	O	P
9.	<i>Pharbitis nil</i> Choisy	Asagao	27	(7.1)	O	A
10.	<i>Petroselinum sativum</i> Hoffm.	Paseri	26	(6.8)	V	B
11.	<i>Allium wakegi</i> Araki	Wakegi	25	(6.6)	V	P
12.	<i>Cryptotaenia japonica</i> Hassk.	Mitsuba	24	(6.4)	V	P
13.	<i>Lampranthus spectabilis</i> N.E.Br.	Matsubagiku	23	(6.1)	O	P
14.	<i>Lactuca sativa</i> L.	Retasu	22	(5.8)	V	B
15.	<i>Dianthus superbus</i> L.	Bijo-nadeshiko	21	(5.5)	O	P
16.	<i>Brassica barbatula</i> L. var.	Hanana(Nabana)	20	(5.3)	V	B
17.	<i>Freesia hybridus</i> hort.	Furiija	20	(5.3)	O	P
18.	<i>Rhododendron indicum</i> Sweet	Satsuki	20	(5.3)	O	P
19.	<i>Cosmos bipinnatus</i> Cav.	Kosumosu	20	(5.3)	O	A
20.	<i>Gladiolus hybrida</i> hort.	Gurajiorasu	20	(5.3)	O	P
21.	<i>Solanum melongena</i> L.	Nasu	17	(4.5)	V	A
22.	<i>Rosa hybrida</i> hort.	Bara	17	(4.5)	O	W
23.	<i>Hydrangea macrophylla</i> Ser. sub sp. typica var. otakusa Makino	Ajisai	16	(4.2)	O	W
24.	<i>Mirabilis jalapa</i> L.	Oshiroibana	16	(4.2)	O	P

Latin name	Japanese name	Frequency appearance		Classification	
		Number of houses	(%)	(See Table 7) I	II
25. <i>Chrysanthemum leucanthemum</i> L.	Furansu-giku	15	(3.9)	O	P
26. <i>Salvia splendens</i> Sello	Higoromoso	14	(3.7)	O	A
27. <i>Lilium</i> sp. (p)	Yuri	13	(3.4)	O	P
28. <i>Chlorophytum comosum</i> Baker	Orizururan	13	(3.4)	O	P
29. <i>Silene armeria</i> L.	Mushitori-nadeshiko	12	(3.2)	O	A
30. <i>Physostegia virginiana</i> Benth.	Hanatoranoo	12	(3.2)	O	P
31. <i>Zantedeschia aethiopica</i> Spr.	Kaiu	12	(3.2)	O	P
32. <i>Lilium longiflorum</i> Thunb.	Teppo-yuri	12	(3.2)	O	P
33. <i>Momordica charantia</i> L.	Nigauri	11	(2.9)	V	A
34. <i>Camellia japonica</i> L.	Tsubaki	11	(2.9)	O	W
35. <i>Rhoeo discolor</i> Hance	Murasaki-omoto	11	(2.9)	O	P
36. <i>Cactus</i> sp. (p)	Saboten	11	(2.9)	O	P
37. <i>Luffa cylindrica</i> Roem.	Hechima	10	(2.6)	V	A
38. <i>Allium sativum</i> L.	Ninniku	10	(2.6)	V	P
39. <i>Phaseolus</i> sp. (s)	Mame	10	(2.6)	V	A
40. <i>Citrus</i> sp. (p)	Mikan	10	(2.6)	F	W
41. <i>Impatiens balsamina</i> L.	Hosenka	10	(2.6)	O	A
42. <i>Rohdea japonica</i> Roth.	Omoto	10	(2.6)	O	P
43. <i>Helichrysum bracteatum</i> Willd.	Mugiwaragiku	10	(2.6)	O	B, A
44. <i>Zephyranthes candida</i> Herb.	Tamasudare	10	(2.6)	O	P
45. <i>Narcissus</i> sp. (p)	Suisen	10	(2.6)	O	P
46. <i>Verbena hortensis</i> hort.	Bijozakura	10	(2.6)	O	P
47. <i>Rhododendron</i> sp. (p)	Tsutsuji	10	(2.6)	O	W
48. <i>Symphytum officinale</i> L.	Konfurii	9	(2.4)	V	P
49. <i>Rhapis humilis</i> Blume	Shurochiku	9	(2.4)	O	W
50. <i>Cycas revoluta</i> Thunb.	Sotetsu	9	(2.4)	O	W
51. <i>Nandina domestica</i> Thunb.	Nanten	9	(2.4)	O	W
52. <i>Bleilla striata</i> Reichb. fil	Shiran	9	(2.4)	O	P
53. <i>Iris florentina</i> L.	Nioiayame	9	(2.4)	O	P
54. <i>Hellianthus annuus</i> L.	Himawari	9	(2.4)	O	A
55. <i>Daphne odora</i> Thunb.	Jinchoge	8	(2.1)	O	W
56. <i>Lycoris aurea</i> Herb.	Shokiran	8	(2.1)	O	P
57. <i>Zinnia elegans</i> L.	Hyakunichiso	8	(2.1)	O	A
58. <i>Sedum</i> sp. (p)	Benkeiso	8	(2.1)	O	P
59. <i>Lycopersicum esculentum</i> Mill.	Tomato	7	(1.8)	V	A
60. <i>Canna generalis</i> Bailey	Kanna	7	(1.8)	O	P
61. <i>Portulaca grandiflora</i> Hook.	Matsubabotan	7	(1.8)	O	A
62. <i>Dianthus</i> sp. (p)	Nadeshiko	7	(1.8)	O	P
63. <i>Ligularia tussilaginea</i> Makino	Tsuwabuki	6	(1.6)	V	P
64. <i>Beta vulgaris</i> L. var. <i>cicla</i> L.	Fudanso	6	(1.6)	V	B
65. <i>Forsythia suspensa</i> Vahl	Rengyo	6	(1.6)	O	W
66. <i>Fatsia japonica</i> Decne. et Planch.	Yatsude	6	(1.6)	O	W
67. <i>Tradescantia reflexa</i> Rafin.	Murasakitsuyukusa	6	(1.6)	O	P
68. <i>Centaurea cyanus</i> L.	Yagurumaso	6	(1.6)	O	B
69. <i>Viola tricolor</i> L. var. <i>hortensis</i> DC.	Panji	6	(1.6)	O	B
70. <i>Celosia cristata</i> L.	Keito	6	(1.6)	O	A
71. <i>Cucumis sativus</i> L.	Kyuri	5	(1.3)	V	A
72. <i>Xanthoxylum piperitum</i> DC.	Sansho	5	(1.3)	V	W
73. <i>Fragaria</i> × <i>ananassa</i> Duch.	Oranda-ichigo	5	(1.3)	V	P
74. <i>Osmanthus</i> sp. (p)	Mokusei	5	(1.3)	O	W
75. <i>Palmae</i> sp.(p)	Yashi	5	(1.3)	O	W
76. <i>Aster tataricus</i> L.	Shion	5	(1.3)	O	P
77. <i>Crinum asiaticum</i> L.	Hamayu	5	(1.3)	O	P
78. <i>Viola mandshurica</i> W. Becker	Sumire	5	(1.3)	O	P
79. <i>Petunia hybrida</i> Vilm.	Tukubane-asagao	5	(1.3)	O	P
80. <i>Tagetes erecta</i> L.	Manjugiku	5	(1.3)	O	A
81. <i>Allium cepa</i> L.	Tamanegi	4	(1.1)	V	B
82. <i>Raphanus sativus</i> L.	Daikon	4	(1.1)	V	B
83. <i>Saxifraga stolonifera</i> Meerb.	Yukinoshita	4	(1.1)	P	P
84. <i>Ilex rotunda</i> Thunb.	Kuroganemochi	4	(1.1)	O	W
85. <i>Lantana camara</i> L.	Shichihenge	4	(1.1)	O	W
86. <i>Nerium indicum</i> Mill.	Kyochikuto	4	(1.1)	O	W
87. <i>Punica granatum</i> L.	Zakuro	4	(1.1)	O	W
88. <i>Serissa japonica</i> Thunb.	Hakuchoge	4	(1.1)	O	W
89. <i>Wisteria floribunda</i> DC.	Fuji	4	(1.1)	O	W
90. <i>Dracaena</i> sp. (p)	Dorasena	4	(1.1)	O	W
91. <i>Agave americana</i> L.	Ryuzetsuran	4	(1.1)	O	P
92. <i>Bellis perennis</i> L.	Hinagiku	4	(1.1)	O	P

	Latin name	Japanese name	Frequency-appearance		Classification	
			Number of houses	(%)	(See Table 7) I	II
93.	<i>Iris sanguinea</i> Hornemann	Ayame	4	(1. 1)	O	P
94.	<i>Dianthus caryophyllus</i> L.	Kaneshon	4	(1. 1)	O	P
95.	<i>Kalanchoe blossfeldiana</i> Poelln	Karankoe	4	(1. 1)	O	P
96.	<i>Lilium lancifolium</i> Thunb.	Oniyuri	4	(1. 1)	O	P
97.	<i>Physalis alkekengi</i> L. var. <i>francheti</i> Makino	Hozuki	4	(1. 1)	O	P
98.	<i>Schlumbergera russellianum</i> Lem.	Kanishaboten	4	(1. 1)	O	P
99.	<i>Solanum pseudo-capsicum</i> L.	Fuyusango	4	(1. 1)	O	P
100.	Phyllo-hybrids	Kujaku-saboten	4	(1. 1)	O	P
101.	<i>Althaea rosea</i> Cav.	Tachiaoi	4	(1. 1)	O	B
102.	<i>Calendula officinalis</i> L.	Kinsenka	4	(1. 1)	O	B
103.	<i>Coreopsis drumondii</i> Torr. et A. Gray	Kinkeigiku	4	(1. 1)	O	A
104.	<i>Colocasia antiquorum</i> Schott.	Satoimo	3		V	P
105.	<i>Hibiscus esculentus</i> L.	Okura	3		V	A
106.	<i>Dioscorea japonica</i> Thunb.	Yamanoimo	2		V	P
107.	<i>Spinacea oleracea</i> L.	Horenso	3		V	B
108.	<i>Raphanus sativus</i> L. var. <i>radicula</i> Pers.	Hatsuka-daikon	2		V	B, A
109.	<i>Vigna catieng</i> Endl.	Sasage	2		V	A
110.	<i>Capsicum annuum</i> L. var. <i>grossum</i> Bailey	Piman	3		V	A
111.	<i>Capsicum annuum</i> L. var. <i>fasciculatum</i> Bailey	Togarashi	2		V	A
112.	<i>Brassica oleracea</i> L.	Kyabetsu	2		V	B
113.	<i>Brassica campestris</i> L. var. <i>oleifera</i> Sinsk.	Aburana	2		V	B
114.	<i>Angelica keiskei</i> Koidz.	Ashitaba	1		V	P
115.	<i>Apium graveolens</i> L.	Serori	1		V	B
116.	<i>Arctium lappa</i> L.	Gobo	1		V	B
117.	<i>Brassica oleracea</i> L. var. <i>gongylodes</i> L.	Keru	1		V	B
118.	<i>Allium bakeri</i> Regel	Rakkyo	1		V	P
119.	<i>Orychophragmus violaceus</i> O. E. Schulz.	Shokatsuma	1		V	B
120.	<i>Brassica pekinensis</i> Pupr.	Hakusai	1		V	B
121.	<i>Benincasa hispida</i> Cogn.	Togan	1		V	A
122.	<i>Cucurbita moschata</i> Duch.	Kabocha	1		V	A
123.	<i>Daucus carota</i> L. var. <i>sativa</i> DC.	Ninjin	1		V	B
124.	<i>Glycine max</i> Merrill	Daizu	1		V	A
125.	<i>Phaseolus vulgaris</i> L.	Ingenmame	1		V	A
126.	<i>Pseudodanum japonicum</i> Thunb.	Botanbofu	1		V, O	P
127.	<i>Oenanthe stolonifera</i> DC.	Seri	1		V	P
128.	<i>Saccharum officinarum</i> L.	Satokibi	1		V	P
129.	<i>Solanum tuberosum</i> L.	Jagaimo	1		V	B
130.	<i>Zea mays</i> L.	Tomorokoshi	1		V	A
131.	<i>Acorus calamus</i> L.	Shobu	2		P	P
132.	<i>Angelica acutiloba</i> Kitagawa	Toki	1		P	P
133.	<i>Canabis sativa</i> L.	Asa	1		P	A
134.	<i>Houttunia cordata</i> Thunb.	Dokudami	1		P	P
135.	<i>Lycium chinense</i> Mill.	Kuko	1		P	W
136.	<i>Diospyros kaki</i> Thunb.	Kaki	1		F	W
137.	<i>Eriobotrya japonica</i> Lindl.	Biwa	2		F	W
138.	<i>Prunus mume</i> Sieb. et Zucc.	Ume	2		F	W
139.	<i>Prunus persica</i> Batsch.	Momo	2		F	W
140.	<i>Acer</i> sp. (p)	Kaede	2		O	W
141.	<i>Beloperone guttata</i> Brandege	Koebiso	1		O	W
142.	<i>Bougainvillea glabra</i> Choisy	Bugenbiria	1		O	W
143.	<i>Bredia hirsuta</i> Blume	Hashikanboku	1		O	W
144.	<i>Buxus microphylla</i> Sieb. et Zucc.	Tsuge	1		O	W
145.	<i>Camellia sasanqua</i> Thunb.	Sazanka	3		O	W
146.	<i>Caragana chamlagu</i> Lam.	Muresuzume	1		O	W
147.	<i>Cassia glauca</i> Lam.	Kobanasenna	3		O	W
148.	<i>Chaenomeles lagenaria</i> Koidz.	Boke	3		O	W
149.	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Sieb. et Zucc. var. <i>breviramea</i> Mast.	Ogonhiba	2		O	W
150.	<i>Clerodendron bungei</i> Steud	Botankusagi	1		O	W
151.	<i>Cleyera ochnaeceia</i> DC.	Sakaki	1		O	W
152.	<i>Cryptomeria japonica</i> D. Don	Sugi	1		O	W
153.	<i>Cuphea hyssopifolia</i> Humb.	Kuhe	3		O	W
154.	<i>Erodianpanax innovans</i> Nakai	Takanotsume	1		O	W
155.	<i>Erythrina arborescens</i> Small	Amerika-deiko	1		O	W
156.	<i>Euphorbia millii</i> Ch. des Moulins	Hanakirin	1		O	W
157.	<i>Euphorbia pulcherrima</i> Willd.	Poinsechia	2		O	W
158.	<i>Eurya emarginata</i> Makino	Hamahisakaki	1		O	W
159.	<i>Ficus elastica</i> Roxb.	Indogomunoki	1		O	W

	Latin name	Japanese name	Frequency appearance	Classification	
			Number of houses	(See Table 7) I	II
160.	<i>Gardenia jasminoides</i> Ellis	Kuchinashi	3	O	W
161.	<i>Ginkgo biloba</i> L.	Icho	1	O	W
162.	<i>Hibiscus mutabilis</i> L.	Fuyo	1	O	W
163.	<i>Hibiscus rosa-sinensis</i> L.	Bussoge	3	O	W
164.	<i>Hibiscus syriacus</i> L.	Mukuge	2	O	W
165.	<i>Illicium religiosum</i> Sieb. et Zucc.	Shikimi	3	O	W
166.	<i>Ixora chinensis</i> L.	Santanka	1	O	W
167.	<i>Jasminum officinale</i> L.	Sokei	1	O	W
168.	<i>Kerria japonica</i> DC.	Yamabuki	1	O	W
169.	<i>Lagerstroemia indica</i> L.	Sarusuberi	2	O	W
170.	<i>Ligustrum japonicum</i> Thunb.	Nezumimochi	3	O	W
171.	<i>Ligustrum obtusifolium</i> Sieb. et Zucc.	Ibota	3	O	W
172.	<i>Magnolia liliflora</i> Desrouss.	Mokuren	1	O	W
173.	<i>Melia azadarach</i> L.	Sendan	1	O	W
174.	<i>Parthenocissus tricuspidata</i> Planch.	Tsuta	2	O	W
175.	<i>Pieris japonica</i> D. Don	Asebi	3	O	W
176.	<i>Pinus thunbergii</i> Parl.	Kuromatsu	2	O	W
177.	<i>Podocarpus macrophylla</i> D. Don	Inumaki	3	O	W
178.	<i>Prunus tomentosa</i> Thunb.	Yusuraume	3	O	W
179.	<i>Rhododendron pulchrum</i> Sweet	Omurasaki	1	O	W
180.	<i>Rubus</i> sp. (p)	Kiichigo	1	O	W
181.	<i>Russelia juncea</i> Zucc.	Hanachoji	1	O	W
182.	<i>Salix gracilistyla</i> Miq.	Nekoyanagi	2	O	W
183.	<i>Spiraea thunbergii</i> Sieb.	Yukiyana	1	O	W
184.	<i>Ternstroemia japonica</i> Thunb.	Mokkoku	1	O	W
185.	<i>Tetrapanax papyriferum</i> K. Koch	Tsudatsuboku	1	O	W
186.	<i>Viburnum awabuki</i> K. Koch	Sangoju	1	O	W
187.	<i>Yucca smalliana</i> Fernald	Itoran	1	O	W
188.	<i>Achillea sibirica</i> Ledeb.	Nokogiriso	1	O	P
189.	<i>Acorus gramineus</i> Soland.	Sekisho	1	O	P
190.	<i>Agapanthus africanus</i> Hoffmg.	Agapansasu	1	O	P
191.	<i>Alpinia intermedia</i> Gagnep.	Aonokumatakeran	2	O	P
192.	<i>Arrhenatherum elatius</i> Mart. et Koch var. <i>tuberosum</i> Halac	Ribon-gurasu	1	O	P
193.	<i>Asparagus plumosus</i> Baker	Shinobu-boki	1	O	P
194.	<i>Asparagus pygmaeus</i> Makino	Tachi-tenmondo	1	O	P
195.	<i>Aspidistra elatior</i> Blume	Haran	2	O	P
196.	<i>Aster savatieri</i> Makino (<i>Gymnaster savatieri</i> Kitamura)	Miyakowasure	1	O	P
197.	<i>Begonia semperflorens</i> Link et Otto	Shikizaki-begonia	1	O	P
198.	<i>Begonia</i> sp. (p)	Begonia	3	O	P
199.	<i>Calanthe discolor</i> Lindl.	Ebine	2	O	P
200.	<i>Calonyction aculeatum</i> House	Yorugao	2	O	P
201.	<i>Cephalanthera falcata</i> Lindl.	Kinran	1	O	P
202.	<i>Chrysanthemum</i> sp. (s)		3	O	P
203.	<i>Clivia miniata</i> Regel	Kunshiran	2	O	P
204.	<i>Colysis pothifolia</i> Pr.	Ooiwahitode	1	O	P
205.	<i>Cymbidium virescens</i> Lindl.	Shunran	3	O	P
206.	<i>Cyperus alternifolius</i> L.	Shurogayatsuri	1	O	P
207.	<i>Dahlia</i> sp. (p)	Daria	3	O	P
208.	<i>Dendrobium moniliforme</i> Sw.	Sekkoku	1	O	P
209.	<i>Dianthus chinensis</i> L.	Sekichiku	3	O	P
210.	<i>Equisetum arvense</i> L.	Tsukushi	1	O	P
211.	<i>Equisetum hiemale</i> L.	Tokusa	1	O	P
212.	<i>Gerbera hybrida</i> hort.	Gabera	3	O	P
213.	<i>Helianthus tuberosus</i> L.	Kikuimo	1	O	P
214.	<i>Helianthus</i> sp. (s)		1	O	P
215.	<i>Hibiscus coccineus</i> Walt.	Momijiao	3	O	P
216.	<i>Hosta sieboldiana</i> Engl.	Giboshi	1	O	P
217.	<i>Hyacinthus orientalis</i> L.	Hiashinsu	1	O	P
218.	<i>Iris germanica</i> L.	Jaman-airisu	1	O	P
219.	<i>Iris japonica</i> Thunb.	Shaga	1	O	P
220.	<i>Iris ensata</i> Thunb.	Hanashobu	3	O	P
221.	<i>Ixia hybrida</i> hort.	Ikisha	1	O	P
222.	<i>Kniphofia hybrida</i> hort.	Toritoma	1	O	P
223.	<i>Lilium elegans</i> Thunb.	Sukashiyuri	1	O	P
224.	<i>Lilium speciosum</i> Thunb.	Kanokoyuri	3	O	P
225.	<i>Liriope graminifolia</i> Baker	Yaburan	2	O	P

Latin name	Japanese name	Frequency appearance Number of houses	Classification (See Table 7)	
			I	II
226. <i>Lycoris radiata</i> Herb.	Higanbana	1	O	P
227. <i>Nephrolepis cordifolia</i> Presl	Tamashida	2	O	P
228. <i>Ornithogalum thyrsoides</i> Jacq.	Orunisogaramu	3	O	P
229. <i>Oxalis martiana</i> Zucc.	Murasakikatabami	2	O	P
230. <i>Paeonia albiflora</i> Pall.	Shakuyaku	1	O	P
231. <i>Selaginella tamariscina</i> Spring	Iwahiba	1	O	P
232. <i>Sisyrinchium angustifolium</i> Mill.	Niwazekisho	1	O	P
233. <i>Solidago virga-aurea</i> L.	Akinokirinso	1	O	P
234. <i>Stokesia laevis</i> Greene	Rurigiku	3	O	P
235. <i>Taraxacum platycarpum</i> Dahlst.	Tanpopo	3	O	P
236. <i>Tulipa gesneriana</i> L.	Tyurippu	1	O	P
237. <i>Zebrina pendula</i> Schnitzlein	Hakatakarakusa	1	O	P
238. <i>Zebrina purpurea</i> hort.	Oomurasakitsuyukusa	1	O	P
239. <i>Zephyranthes carinata</i> Herb.	Safuranmodoki	2	O	P
240. <i>Antirrhinum majus</i> L.	Kingyoso	3	O	B
241. <i>Brassica oleracea</i> L. var. <i>acephala</i> DC.	Habotan	1	O	B
242. <i>Chrysanthemum multicaule</i> Desf.	Muruchikore	1	O	B, A
243. <i>Lathyrus odoratus</i> L.	Suiitopii	2	O	B
244. <i>Oenothera lamarckiana</i> Ser.	Oomatsuyoigusa	2	O	B
245. <i>Callistephus chinensis</i> Nees	Ezogiku	2	O	A
246. <i>Cardiospermum helicacabum</i> L.	Fusenkazura	1	O	A
247. <i>Dicentra spectabilis</i> DC.	Kemanso	1	O	A
248. <i>Gomphrena globosa</i> L.	Sennichiso	1	O	A
249. <i>Gypsophila elegans</i> Bieb.	Kasumiso	1	O	A
250. <i>Hibiscus moscheutos</i> L.	America-fuyo	1	O	A
251. <i>Lupinus polyphyllus</i> Lindl.	Rupinasu	1	O	A
252. <i>Matthiola incana</i> R. Br.	Araseito	1	O	A
253. <i>Mimosa pudica</i> L.	Ojigiso	1	O	A
254. <i>Ocimum basilicum</i> L.	Meboki	1	O	A
255. <i>Papaver rhoeas</i> L.	Hinageshi	1	O	A
256. <i>Quamoclit pennate</i> Gojer	Rukoso	3	O	A
257. <i>Solanum</i> sp. (s)		1	O	A
258. <i>Torenia fournieri</i> Linden	Torenia	1	O	A
259. <i>Tropaeolum majus</i> L.	Kinrenka	3	O	A
260. <i>Vinca rosea</i> L.	Nichinichiso	1	O	A
261. Woody plant sp. 1		1	O	W
262. Herbaceous plant sp. 1		1	O	A
263. Herbaceous plant sp. 2		1	O	A
264. <i>Pteridophyta</i> sp. 1		1	O	P

N.B. 1) Frequency appearance (%) was presented as percentage to houses with idea pots.
Those less than 1% were omitted.

2) p: plural, and s: single.

Table 7. Classification of idea pot-plants by usage (I) or character (II) and their frequency appearance

(I)	Vegetables (V)	Fruit trees (F)	Medicinal plants (P)	Ornamental plants (O)	Total
Number of species (%)	50(18.9)	5(1.9)	7(2.7)	202(76.5)	264(100)
Total number of houses with those plants (%)	617(35.5)	17(1.0)	55(3.2)	1051(60.4)	1740(100)
(II)	Woody perennials (W)	Perennials and bulbous plants (P)	Biennials (B)	Annuals (A)	Total
Number of species (%)	75(28.4)	115(43.6)	28(10.6)	46(17.4)	264(100)
Total number of houses with those plants (%)	243(14.0)	1044(60.0)	166(9.5)	287(16.5)	1740(100)

多くなるのは当然であろう。

いま一つは、この事実が、普通の植木鉢ではみられず、アイディア鉢に限って認められることである。すなわち、首都圏では、プランターを含めた植木鉢に果樹や野菜類を植えている人は17%である¹⁾。鹿児島市において著者が、プランターを除いた植木鉢について調べた結果でも、その割合は12%であった。ところが、このような観点から、アイディア鉢をもつ380戸についてまとめてみると、291戸(76.6%)は何らかの野菜をアイディア鉢に植えていた。

もともと日本では、アイディア鉢、庭に限らず、家の周囲に空き地があれば野菜を植える傾向があることはよく知られているが、ヨーロッパでは、庭には野菜はほとんどつくりたいといわれる。また日本では、金のゆとりができたなら花を買う、という考えが強い。

今までに述べた諸事実、観察結果と、“みかけが悪くて恥ずかしい”けれども、“金がないから”アイディア鉢を使う、という発言のうらに、金のかかる、高級な鉢にはぜいたく品である観賞植物を、金のかからない、低級なアイディア鉢にはありふれた野菜をつくる、という考え方を読みとることができる。これは、外国渡来の植木鉢(化粧鉢は中国から、素焼鉢は欧米から)へのあこがれ、および、食用植物を、日常的であるがゆえに、観賞植物よりも低位にみる、という日本人の潜在意識を表現するものとして注目される。

アイディア鉢にみられる植物の種類を栽培習性の面からみると、球根植物や宿根植物を含めた多年生草本植物がもっとも多く(43.7%)、ついで木本植物が多かった(28.5%)(Table 7)。このことは、家々に植物がかなり植えられてはいるが、植物相の年変化はあまり著しくないことを示唆する。著者がある団地を対象として通年観察した結果でも、種類としては多年生草本や木本植物が多く、植えかえや除草などの手入れもあまりひんばんには行なわれていなかった(未発表)。また、鉢物に関する調査の例でも、多年生植物の頻度がきわめて高い²⁾。これらの諸例からみると、1年生、2年生植物よりも多年生植物が多いのは日本の家庭園芸の全体的傾向と考えてよさそうである。

以上要するに、アイディア鉢は少なくともはじめは植木鉢の代用品として出発したことは疑いの余地がない。ところが、本格的に園芸に取り組み、多くのアイディア鉢を有している人はやや趣を異にしていた。すなわち、彼らは電燈のかさ、石臼、壺などの廃物、ブロック、樹木の切り株、石など、身近にあるものを利

用して、植木鉢の鉢物以上に観賞的価値の高い作品をつくりあげて園芸をたのしんでいた。彼らの言葉を借りれば、“いろいろと工夫し”て“つくりあげる”のが“たのしく”また“生きがいを感じる”という。これらの発言をきいていると、アイディア鉢は“かっこわるくて恥ずかしい”と口では自嘲するが、言葉のうらにはむしろ誇りすら感じられた。

このようにアイディア鉢には、それを持つ人々が意識するしないのいかんを問わず、自らの工夫と努力によって、直面する問題を解決し、さらに新しい、より高度なものを求める喜びを見出した、いわゆる“創造的に生きる人間像”が示されている。

要 約

植木鉢の原点を探ってみると、1)植物を植えるための土を保持できること、2)水によってこわれないこと、の2点があげられる。ここでは、この原点にたって植物が植えられている容器のうち、植物を植える目的をもって開発された容器類以外のすべてを“アイディア鉢 (Idea Pot)”と称する。

本調査では、鹿児島市内の1333戸を対象として、1)アイディア鉢の保有状態、2)アイディア鉢として使われた素材、3)アイディア鉢に植えられている植物を明らかにすることを目的とした。

アイディア鉢の保有率は調査戸数の約30%であった。また、屋敷内の緑が少ないほどアイディア鉢の保有率は高い傾向がみられた。

アイディア鉢の種類は70種以上、その延べ総数は1423個であった。このなかには、数こそ少なかったが、電燈のかさ、切り株、タイヤ、浴用椅子、ブロックの穴、ビニール袋、石臼など、園芸専門家の常識では考えつきそうにないものが含まれていた。

アイディア鉢の材料についてみると、種類としては合成樹脂製品、金属製品が多く、数のうえでは木製品の比率が高かった。

アイディア鉢への転用の仕方をみると、種類、保有戸数、総数のいずれについても、使い古したもの、欠損したもの、あるいは、魚箱、リンゴ箱のような、本来の目的を達したものが多かった。

アイディア鉢となったものがもともと使われていた場所の面からみると、種類および保有率では台所用品が多く、数のうえからは、普通の家庭ではあまり使われないもの(たとえば、魚箱、リンゴ箱など)が多かった。

アイディア鉢の植物は260種以上に及び、観賞植物

は約70%でもっとも多かった。個々の植物の出現率についてみると、ネギがもっとも多く、ついで、ニラ、ゼラニウム、キク、シソの順であった。野菜は植木鉢にはあまり植えられていなかったが、アイディア鉢ではきわめて多かった。

謝 辞

本著をまとめるにあたって助言と校閲をいただいた本学農学部有隅健一教授に謝意を表す。また、英文

については、鹿児島外語センター D. Hendrickson 氏および手島八洲男氏の助言を得た。記して謝意を表す。

文 献

- 1) 朝日新聞社：園芸マーケットの分析と資料，1-159 (1975)
- 2) 株式会社クラレ：都市ホワイト・カラーの家庭園芸。くらしの科学情報（調査編）昭和50年4月—2，1-10 (1975)

Summary

The author defines 'idea pot' as all the receptacles in which plants are grown except the vessels or the boxes made originally for the purpose of growing plants.

The author examined the following items on 1,333 premises in Kagoshima city. 1) Frequency appearance of 'idea pot'. 2) Kind and number of articles used as 'idea pot'. 3) Plant species grown in 'idea pot'.

380 of the examined premises had idea pots. There was a tendency that the premises with lesser green areas accompanied the higher frequency appearance of idea pots. The kinds of idea pots were more than 70 and the total number was 1423.

As shown in Table 3, synthetic resin and metal were most frequently used for idea pots, *i. e.*, the kinds used were of great variety, and both the total number of idea pots and that of the houses with these pots were greatest. In contrast, the kinds of wooden articles were the most limited, but when compared with other materials, their total number was relatively greater.

From the view point of utilization of the article, the useless ones, because of breakdown or wear and having been used for the original purposes, were mostly used as idea pots (Table 4).

When the articles were divided in accordance with the original usage, kitchenware was most frequently used, but the total number of idea pots were greatest in articles for special usage and others, *i. e.*, in articles generally un-used at home (Table 5).

Plants grown in idea pots encompassed more than 260 species. Ca. 70% of them were ornamental plants. The frequency appearances of the houses with idea pots growing *Allium fistulosum*, *Allium tuberosum*, *Pelargonium hortorum*, *Chrysanthemum morifolium* or *Perilla frutescens* were 40.5, 27.1, 23.3, 20.8 or 16.8%, respectively.

It was rare that vegetables were planted in ordinary clay pots, but in idea pots there was a much great frequency.